

「統合イノベーション戦略2022」等について

令和4年6月2日

総合科学技術・イノベーション会議 議員

梶田 隆章

岸田政権におかれては「新しい資本主義」の柱の一つとして「科学技術・イノベーションへの投資」を挙げられ、様々な施策により我が国の研究力の向上に向けて精力的に取り組んでいただいていることに、学術に携わる者として感謝しております。その上で、今回議題となった「統合イノベーション戦略2022」及び「Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」に関連して意見を述べさせていただきます。

まず、我が国の研究力の強化には、一部のトップ層の大学だけでなく、中間層の大学を底上げし、研究力の厚みのある基盤を築いていくことが不可欠です。そのために、「地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ」を今後抜本的に強化し、支援策を充実させていくことを期待しております。

次に、研究力を支えるのは人であり、特に我が国でも博士人材の活用を推進することが重要です。これまでの政府の御努力により博士課程学生支援についてはかなり充実を図っていただきました。一方で博士課程修了者の多くが、職の面で不安定な立場に置かれている現状を考えると、キャリアパスを多様化し、産業界を含めて社会の様々な場で博士課程修了者が活躍できる環境の構築に向けて一層の努力が必要と考えます。海外に比べて、人文社会科学系博士人材が極端に少ないことも大きな課題です。また、女性が活躍できる社会を見据えて、特に理工系の女性研究者数を大きく伸ばすことも重要と思います。

最後は教育に関してですが、高校早期の段階での文理分断からの脱却という点を強調させていただきます。これは高校教育の本来のあるべき姿という観点のみならず、第6期科学技術・イノベーション基本計画における「総合知の活用」の観点からも重要であるものと考えます。大学入試とも密接に結びついた難しい問題であることは認識しておりますが、真剣な検討が必要な問題と思います。

以上